Newsletter
Vol.28
2015. JUNE.
Graduate School of Mathematics
NAGOYA UNIVERSITY
名古屋大学 大学院多元数理科学研究科

新年度スタートと共に、多元数理科学研究科も再び新しいスタートを切りました。年度始めとは伝統を大切に継承しながらも、新しいことにも目を向けていく、そんな思いをより一層強くする時期なのかもしれません。そして今、日々強くなる日差しに、やがて始まる本格的な夏を感じながら、今号をお届けします。

2015年度　学生プロジェクト
始動開始! プロジェクトの実現に向けて

学生プロジェクトは、学生の学位論文作成に向けての準備の一環で、同時に問題発見能力・企画運営能力・問題解決能力を養うことを目的としています。多元数理科学研究科は、学生自ら研究計画・運営するこの活動を全面的にサポートしています。

2015年度は企画書と面談によって11件が採択されました。このプロジェクトは、毎年国内の研究集会や勉強会への参加、海外の大学・研究機関に滞在あるいは国際研究集会に参加する際に予算の配慮をします。今年度も続々と計画が寄せられています。自分たちで計画から運営まで手がける経験は、学生相互間の協力体制が生まれ、お互いが成長していく糧となります。今年度の学生プロジェクトの詳細をお知らせします。

（水野貴志子）

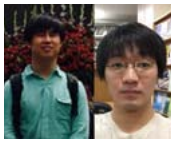
研究課題 ゼータ関数の世界
代表者名 門田慎也(D1)
メンバー構成 門田慎也(D1)、田中諒(D3)、一階智弘(D1)、鈴木雄太(M2)、岩附孝郎(M1)、梅澤暸太(M1)
研究概要 本プロジェクトでは解析数論の中でも特にゼータ関数に関連する研究を行う。世の中には様々なゼータ関数が存在している。そのため、多くの研究集会への参加、また研究集会の企画・運営を行うことで情報収集や意見交換をし、各々の研究の一助とすることを目的としている。

研究課題 Geometric Methods of Representation Theory
代表者名 小川泰朗(D3)
メンバー構成 小川泰朗(D3)、小西正秀(D3)
研究概要 本プロジェクトは代表者らが普段取り扱っている表現論的手法とは少々毛色のことなる幾何的な技法について学ぶことを目的としたものである。今後、代表者の研究を進めるにあたって幾何的な手法が有効と予想されることが、本プロジェクトを立ち上げた動機の一つである。また、本学と学術交流協定を結ぶガジャ・マダ大学の研究集会への参加も予定している。

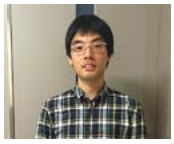
研究課題 シンプレクティック幾何学における埋め込み問題
代表者名 金鍾明(D1)
メンバー構成 金鍾明(D1)、池渕未来(M1)、木村誠吾(M1)、山室孝之(M1)
研究概要 シンプレクティック幾何学における埋め込み問題に関する最新の話題を理解し、各構成メンバーが興味を持っている分野のシンプレクティック埋め込み問題への応用を図ることが本プロジェクトの目的である。さらに来年の2月には、本プロジェクトを通じて得られた結果を基にソウル大学の学生たちと の交流会を開催する予定である。

研究課題 ホモトピー論と非可換幾何
代表者名 堀内遼 (D2)
メンバー構成 堀内遼 (D2)、丸山貴志 (D2)
研究概要 このプロジェクトの目的は、ホモトピー論の非可換幾何学への応用を研究することである。まずは代数的K理論や位相的巡回ホモロジーなどを通して、ホモトピー論と非可換幾何学を理解しようと考えている。

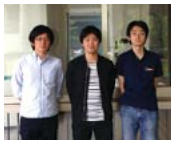
研究課題 数論幾何と位相幾何3
代表者名 郡田亨 (D3)
メンバー構成 郡田亨 (D3)、丸山貴志 (D2)
研究概要 プロジェクトのメンバーや他の方々との学術的な交流を通して、代数幾何と位相幾何に共通する事柄やそれらの周辺の話題に関する知識を広げることを目的として活動します。また、関連分野の研究集会で最新の話題に触れる予定です。



研究課題 非アルキメデス的幾何と力学系理論
代表者名 李正勲(D2)
メンバー構成 李正勲(D2)
研究概要 本プロジェクトでは非アルキメデス的幾何と力学系理論の関係を研究する。主な活動の計画としては、海外の研究集会に参加及び発表を行い、最先端の研究者らとの意見交流を目標とする。



研究課題 幾何と数論に現れる作用素環の解析と応用
代表者名 松岡勇気(D2)
メンバー構成 松岡勇気(D2)、瀬戸樹(D3)、島田佑一(D3)
研究概要 幾何的・数論的な対象の情報を含んだ作用素環の解析及びその応用を研究する。主な活動内容として、他大学の人材も交えた合宿型の勉強会を2月に開催予定である。他の活動としては自主セミナーの実施や、研究集会への参加等がある。



研究課題 メゾスコピック量子統計熱力学の情報理論的新展開
代表者名 伊藤康介(D1)
メンバー構成 伊藤康介(D1)
研究概要 本プロジェクトの研究では、strong large deviationを応用する新たな解析手法を統計物理学の問題へ応用することで、解析の難しく有限性やゆらぎの効果のあるメゾスコピック系に対する数理、物理を明らかにすることを目的とする。この手法を活かせば、有限効果を詳細にとりあつかうことができ、ゆらぎについての理解も従来の研究では不可能であったレベルに到達できると考えられる。そのために、本プロジェクトではまず、8月に京都で開催される　New Frontiers in Non-equilibrium Physics 2015で情報収集を行い、さらに9月に、一ヶ月に渡ってシンガポール国立大学に滞在し、研究交流を行うことを計画している。

研究課題 巡回的ホモロジーの応用トポロジーと半環上への展開
代表者名 丸山貴志(D2)
メンバー構成 丸山貴志(D2)、堀内遼(D2))
研究概要 近年、代数的トポロジーの情報科学や工学などの分野への応用が注目されている。7月6日～7月10日にスイスのローザンヌで開催されるYoung Topologist Meeting 2015 では応用トポロジーに関連したレクチャーが企画されている。メンバーの研究課題は応用トポロジーに関わるものであるため、このワークショップを通して得られる知識をメンバーそれぞれの研究に活用することを考えている。

研究課題 Deformation Theory of Complex Dynamical Systems
代表者名 藤野弘基(D2)
メンバー構成 藤野弘基(D2)、李正勲(D2)、瀬戸樹(D3)、一階智弘(D1)、末武一馬(M2)
研究概要 本企画ではMcMullen-Sullivan理論と呼ばれる複素力学系の変形理論について研究を行う。McMullen-Sullivanの論文を理解することを目標に、まずはCarleson-Gamelinによる教科書を用いて複素力学系と擬等角写像について勉強を進めていきます。

研究課題 非線形分散型方程式の適切性と解の漸近挙動
代表者名 木下真也(D2)
メンバー構成 木下真也(D2)、加藤勳(D3)、伊藤大貴(D3)、徳増孝信(D2)、田中雄大(M2)、淺田祥広(M1)、工藤大貴(M1)
研究概要 本プロジェクトでは、非線形分散型方程式の初期値問題について研究する。線形解とは異なり非線形項のついた分散型方程式は明確に解を書き表すことができないため、可解性と、解が時間経過とともにどのような振る舞いを見せるかを明らかにすることを目的とする。

これまでに発行された Newsletter のバックナンバーが多元数理科学研究科ホームページから PDF ファイルにてダウンロードいただけます。
Newsletter　バックナンバー　http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/archive/newsletter/

教務助教

今年度、教務助教に採用された4人の先生に、
現在行っている講義と研究についてそれぞれ一言いただきました。（西川幸）

右から矢代さん、中塚さん、永田さん、川谷さん

川谷 康太郎

今年、数学演習を担当することになりました、川谷です。突然、自己紹介の原稿を依頼され、戸惑っています。なぜなら、僕はごく普通の人間だからです。書くことに困ったので、数学演習を通じて僕が感じていることを書くことにします。

演習の時間は、僕にとってスリリングです。話の聞き手が大学一年生なので、少しの言い間違いや書き間違いが、とたんに混乱を生んでしまうからです。また、毎週の演習の時間は限られているので、あまり余計なことは言えません。かといって、何も言わないでいると、プリントを配るだけで授業が終わります。「その週でやりたいことの要点が程よく絞ってあり、それでいて、聞いた後に勉強したくなるような説明は、どういう説明だろう?」こういう風に、毎週考えることは楽ではありませんが、楽しい部分もあります。自分にとっての再発見になるからです。

受講生にとって良い意味で刺激的な授業を目指し、これからも頑張りたいと思います。

矢代 好克

昨年度の秋から教務助教に着任し、理学部1年生を対象とする「数学演習」の講義を受け持っています。

線形代数学・微分積分学の講義でまだ習っていない内容が出ることがあるので、学生が演習問題やレポートに取り組むことが出来るようにと思っています。実際に行っていることは、講義では始めに内容を説明し、演習中に学生からの質問に答え、最後に学生が解けていなかった問題を解説しています。レポートでは間違っていた解答へのコメントをプリントに添えています。

講義以外では研究を行っています。これまでに保型 L-関数の高階微分の零点を調べてきました。これまでの研究を生かし、Riemann zeta 関数や保型 L-関数などの多くの関数を含む、Selberg class に属する zeta 関数の高階微分の零点について調べることを目標としています。現在はそれを調べる為の道具（近似関数等式・二乗平均値）を作っています。

永田 義一

今年度の教務助教をさせていただきます、永田と申します。よろしくお願いいたします。

5月になり演習の授業も慣れてきたところですが、最近授業アンケートがあって学生の半数に難しすぎると言われてしまいました。少しショックを受けています。問題に手がつけられるように工夫して説明しないといけないなと思いました。しかし一人だけ易しすぎると答えたツワモノもいて、その人は探し出して数学科に誘いたいと思っています。

研究の方は、多元は居心地がよく毎日研究室に来ていますが、名大にいられるのも今年までで、来年度はおそらくいないはずなので、他の人を巻き込んで今しかできない研究やセミナーをやろうと思っています。

今年の教務助教も変わった人が多く、自分は普通だと言うのかもしれませんが、一つの部屋で1年間楽しく授業の準備と研究をやっていけると思います。笹平先生のもとこの4人で数学演習を良い授業にしたいと思います。

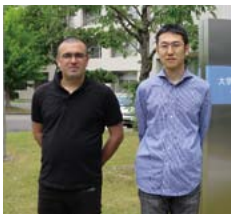
中塚 智之

教務助教として1年生の演習を担当しています。担当開始から2ヶ月近く経ち、ようやく慣れてきたように感じます。演習中はTAと共に質問し易い環境を作るように心掛けています。幸運にも優秀なTAを割り当ててもらえたようで色々と助かっています。

近い将来には海外、特にヨーロッパなどで何年か研究を行い、様々な数学に触れて研究の幅を拡げていけたらと考えています。以前に研究関連で滞在したドイツやチェコ、スイスで研究経験を積めたら言う事無しです。

YLC特任助教

（YLC: Young Leaders Cultivation）



左からRoyさん、松本さん

若手教員の量的確保の重要性を踏まえ、大学全体として継続的かつ計画的に若手教員を採用、養成するために戦略的に実施されているYLCプログラムによって、多元数理科学研究科からも平成26年度後期に新たに松本拓也さんとTristan Royさんのお二人が採用されましたので、ご紹介致します。（神田美幸）

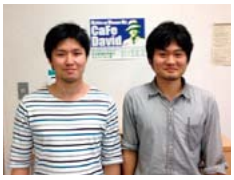
松本拓也：専門は数理物理です。特に超弦理論や超対称ゲージ理論に現れる、超リー代数や量子群などの対称性に興味を持って研究しています。ある系の分配関数や相関関数などを求めることは、物理的に重要ですが、それらを実際に計算するのは 一般には難しい問題です。しかし、系の持つ対称性を使うとそれらを計算できる場合があります。2次元共形場理論の相関関数を、無限次元のビラソロ代数の表現論から決定した Belavin-Polyakov-Zamolodchikovの仕事は、そのような例の典型であり、力強く美しい仕事です。また数学的な立場からは、ヤンギアンや量子アファイン代数等の 無限次元量子群代数が「自然に息づいている場所」を見つけることは、その理論を発展させていく上で重要になると考えています。個人的には、超弦理論や超対称ゲージ理論の中で、無限次元量子群代数の自然な生息地を見つけたいと思っています。多元数理で学位取得後、数年間海外ポスドクを経験しました。昨年秋から、再び多元数理での研究の機会を頂けたことを 嬉しく思い、また感謝しています。より面白い研究ができるように、頑張りたいと思います。

Tristan Roy: I am currently working on the problem of long-time behavior of the solutions of the nonlinear dispersive equations. In particular, I am interested in the issue of global existence of solutions with oscillatory data and in the problem of classification of the long-time behavior of solutions (blow-up or linear asymptotic behavior) for energies below, equal, or larger than the ground states. I am also interested in studying how the solutions blow-up at their maximal time of existence. I am also studying more complicated models that are more representative of the reality. For these models, even the short-time behavior of the solutions is not well understood.

STA（SuperTA）の仕事

STAは、多元数理科学研究科が独自に設けている制度で、博士課程の学生を採用し、大学院前期課程学生を対象とする基礎演習クラスの補助など、より高度な教育経験を積むことを目的としています。また学生のキャリアパスを支援する取り組みとしても位置付けています。2015年度に採用された2名の方々に、抱負を伺いました。（水野貴志子）

STAで担当する基礎演習は、数学の基礎内容だけでなく、数学的な表現力・論証についての基礎的な能力をしっかりと身に付けることを目標としています。このような能力は、今後数学の論文を読んだり書いたりするためだけでなく、社会に出てもきっと役立つと思うので、とても重要です。そのため、責任をもって、基礎演習クラスのみなさんの指導補助という、この重要な役目を果たしたいと思います。（伊藤康介）



STAのお二人
松岡さん、伊藤さん

かの有名なEinsteinは「6歳の子供に説明できなければ、理解したとは言えない」と言ったそうです。数学を理解することと教えることは別物の様に扱われることがありますが、実は それらは表裏一体で、その意味で基礎演習クラスは私たちSTAにとっても勉強の場です。STAの活動を通して数学に対する理解を更に深めたいと思います。

最後に基礎演習クラスの皆さんへ

遠慮せずに何でも質問して下さい。それが一番お互いの為になります。

（松岡勇気）

第2回 数理科学同窓会総会　特集

2011年4月29日に開催した第1回名古屋大学数理科学同窓会総会を契機として、同窓会活動は以前にも増して充実したものになりました。学術奨励賞（飛田賞）の創設、多元数理論文賞の顕彰、企業セミナー・ミニ同窓会への協力、卒業・修了祝賀会支援など、同窓会活動は今や多元数理科学研究科の中にしっかりと根を降ろしています。これらの活動の基盤強化と更なる展開を目指して、昨年のホームカミングデイの折りに開催された数理科学同窓会評議員会において「第2回数理科学同窓会総会」開催を決定いたしました。それから7ヶ月の準備期間を経て、去る2015年5月2日に「第2回数理科学同窓会総会」は好評のうちに終了しました。その模様を写真でふり返りながらお知らせいたします。

（小崎和子）

写真でふり返る第2回数理科学同窓会総会

総会

第1回総会の折りに、キャンパスツアーとして見学した「坂田・平田ホール」が今回の会場でした。受付を済ませた同窓生の方々がロビーで久しぶりの再会に話を弾ませていました。

会場　理学南館　坂田・平田ホール

司会　石川勝氏

同窓会長挨拶

ご来賓
松本邦弘理学部長

ご来賓
三宅正武名誉教授

受付風景

久しぶりの再会

第1回に引き続き、蝶ネクタイがよく似合う石川勝氏の司会で総会は始まりました。多元数理科学研究科長／数理科学同窓会長　菅野浩明教授は、総会冒頭の挨拶で20周年を迎えた多元数理科学研究科にとって、同窓会の活動はかかせないものになっていると語りました。ご来賓の理学部長／理学同窓会長の松本邦弘教授も同様に同窓会の存在の高まりに言及し、また理学同窓会も数理科学同窓会に倣って「学生奨励賞」の創設を検討していると結びました。数理科学同窓会設立時の中心メンバーであった三宅正武名誉教授は、設立の経緯、設立総会で記念講演をされた樋口清司氏の紹介など、終始にこやかに話されました。

学生奨励賞（飛田賞）受賞状況報告

学生奨励賞（飛田賞）受賞者紹介

第2回　飛田賞受賞者
見正秀彦氏

第3回　飛田賞受賞者
野原雄一氏

飛田武幸名誉教授
数理科学同窓会名誉会員

第1回総会で創設を決定した学生奨励賞（飛田賞）は、これまでに3人の若手数学者に贈られています。今回の総会では第2回受賞者見正秀彦氏と第3回受賞者野原雄一氏から受賞者としてのご挨拶をいただきました。また、飛田賞の名称の由来となっている飛田武幸名誉会員からは、大先輩の小野勝次先生のことばとして「学生を引き上げる数学ではなく、押し上げる数学」が、数学の勢いを示すものであることが紹介されました。そして「4年後にまた会いましょう!」との力強い呼びかけがあり感動を呼びました。

同窓会活動報告

同窓会副会長
日比政博氏

日比政博副会長より、第1回総会以降の以下の項目に関する活動報告がありました。

＊評議員会の開催、＊学生奨励賞（飛田賞）、＊多元数理論文賞、＊企業セミナー・ミニ同窓会、＊働くこと&インターンシップ・ミニ同窓会、＊卒業祝賀会、＊ホームカミングデイ、＊教員採用試験合格を目指して、＊在外学友招聘プログラム、＊他の同窓会組織との協力

また、活動報告の最後に数理科学同窓会への寄附のお礼が述べられました。

各界における同窓生の活動紹介

総会会場の様子

志田晶氏
東進ハイスクール
東進衛星予備校数学科講師

織田一彰氏
スローガン株式会社
取締役

白幡篤志氏
南豊田病院
精神科医師

真鍋伸子氏
社会保険診療報酬支払基金
審議役

羽田野太巳氏
有限会社futomi
代表取締役

各界で活躍する同窓生の活動　―― 先輩から後輩へのメッセージ ――

今回の総会では、特に在学生に向けて、様々な分野で活躍している先輩から、数学科の卒業／修了生としてどのように自分の道を切り開いて来たかを語っていただく企画をいたしました。

お一人8分という短い設定時間でしたが、後輩たちに向けてご自身の体験を通して得た貴重なメッセージが発信されました。

- 興味のあるものに向かって積極的に進む。
- 自分がやりたいことに合致しているか。自分が役に立つ場所があるかどうかを問う。
- 今の自分にできることをひとつひとつ積み上げる。
- 追いつめられたら、手を変えてみる。今を楽しもう。
- 数学を学んだ者には物事を飛躍することなく論理的に考える力、一般化して考える力、つきつめて考える力が備わる。数学を学んだことを誇りに進んでほしい。
- 見切りの良さも必要。常にチャレンジ精神を持ち、チャンスを逃さない。

記念講演「次元」

金井雅彦 氏
東京大学大学院
数理科学研究科教授

キッシング問題を考える

記念写真

1998年4月から2011年3月までの13年間多元数理科学研究科に在籍された金井雅彦教授（東京大学数理科学研究科）に「次元」と題する講演をしていただきました。

幾何学者が扱ういろいろな次元の空間の面白さをテーマにしたこの講演では、手作りの模型を実際に手に取ってみながら、次元に関わる不思議について興味深いお話しを聞くことができました。

懇親会場へ移動

予定時間ピッタリに全ての総会プログラムを終え、全員で記念写真を撮りました。その後、懇親会場であるMei-dining (南部食堂)へ揃って移動しました。記念写真は懇親会が終わるまでに印刷し、参加者にお持ち帰りいただきました。

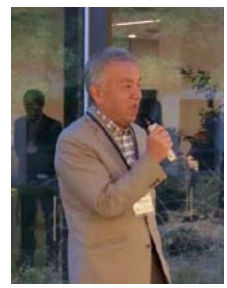
懇親会

懇親会司会　伊藤由佳理氏

乾杯　三浦聰氏

スピーチ　梅村浩氏

伊藤正之氏



亀山富緒氏

祝電・メッセージ披露

懇親会は同窓生でもあり、多元数理科学研究科教員でもある伊藤由佳理氏の司会で進められました。乾杯のご発声は第1回に続き三浦聰氏に、ご挨拶は梅村浩氏、伊藤正之氏、アクチュアリー同窓会を代表して亀山富緒氏にお願いし、それぞれの立場から同窓会活動の更なる充実と発展を願うおことばをいただきました。また、全学同窓会、理学同窓会からの祝電の披露、多元数理科学研究科初代マネージングプロフェッサー高橋誠氏からのメッセージの代読がありました。

今回の総会は卒業生／修了生と在学生の縦の絆の強化が重要テーマのひとつでした。懇親会では、在学生が先輩達に自由に質問できる場を設定し、進路選択のためのアドバイスを受けることができるようにしました。参加した在学生にとっては貴重な機会となりました。

懇談の様子

在学生から先輩への質問タイム

寄せ書き

懇談、寄せ書き

懇親会場では、いくつもの小グループがあちらこちらにでき、それぞれが昔話に花を咲かせたり、旧交を温めながら近況を語りあったりする姿が見受けられました。

また、今回も第1回総会で好評だった横断幕への寄せ書きコーナーを設けました。それぞれの思いが込められた寄せ書きの中から一部をご紹介します。

◉ 寄せ書きから

- 宇宙をめざせ　樋口清司
- 名古屋大学数学教室は最高です。　日比孝之
- 次回も来ます。　森忠彦
- 私も来ます。　小批木
- 目先の成果でなく、歴史に残る理論を創造する人を育ててください。　伊藤締一
- 数学科の卒業生は本質的な問題を解きたがる傾向がある。この特長は企業等にとっても必要なことです。　熊沢昭佳

感 想

数学と出会って早幾年、形を変えながら社会で輝くその不思議さと奥深さに魅了されます。何ともない日常の出来事を「じぇじぇじぇ」と驚く発見が出てくるまで突き詰めてしまう、そんな数学が私は大好きv(｀ゝω・´)キャピィ☆

平成25年度修了生　浅井 琢

先日の同窓会、素晴らしい内容でした。企画お疲れ様でした。

昭和58年卒　辻村 俊哉

◉ 事務局からお知らせ

おかげさまで第2回数理科学同窓会総会を無事終えることができました。ご協力いただきました数多くの皆様に心から感謝いたします。どの時代の卒業生、修了生にとっても名古屋大学数学教室が良い思い出の場であることが願いです。ご参加の皆様の笑顔が何よりの喜びでした。

総会開催の呼びかけ以降、50万円を超える寄附も寄せていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

数理科学同窓会の活動はみなさまの物心両面のご援助により支えられています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

事務局一同

教員採用試験合格を目指して

講義の様子

教員採用試験を受験する学生を対象に、具体的且つ実践的な指導・アドバイスを提供するための講演「教員採用試験を目指して」も今年で6年目を迎えました。教職教養、専門教養、小論文、面接などそれぞれに関する具体的なアドバイス、テキストの紹介、学習方法など、採用試験に向けて有意義な指導・助言の提供の場として定着してきています。

昨年度に続き多元数理科学研究科修了の愛知県立一宮高校教諭　鈴木道彦氏、数理学科卒業の愛知県立春日井高校教諭　川上祥子氏に講師をお願いしています。ご自身の経験を踏まえた生の声を直接後輩達に伝えることは、教員を目指す学生たちにとって、有効かつ大きな励みとなっています。参加した学生からは、講義が終わってからも次々と質問が出ていました。それにひとつひとつ丁寧に的確に答える先輩講師の姿がとても頼もしく見えました。（小崎和子）

質問に答える先輩講師

第9回留学生交流イベント
『世界の食べ物をあてよう』

どこの国の食べ物かな?

世界中の食べ物を集めて、クイズ大会を実施しました。留学生や外国人研究員の皆さんが母国のものを持ち寄り、たくさんの食べ物が会場に揃いました。ポーランドのパンコウスキーさんは、伝統的なパンを自宅で焼いて持ってきてくれました。色とりどりの食べ物を味わい、香りを楽しみ、どこの国の食べ物かな?　あの国の食べ物かな?　と、グループごとにアイデアを出し合い、点数を競いました。ゲームが終わったあとは食文化の話題で盛り上がり、「おいしいものをいっぱい食べて、食文化の勉強になった」、「工夫された企画で、楽しくコミュニケーションできた」と、大好評でした。多元数理では今後も楽しい交流イベントを企画していきます。皆さんのご参加をお待ちしております。（最明晴美）

Cafe David!
～ 自由な討論と交流の場 ～

コーヒーを飲みながら、先生や先輩、友人と自由に数学について議論し合う。なんて贅沢で素敵な時間なのだろうと思います。多元数理科学研究科では、毎日12:00～13:30に2階リフレッシュスペースにて、「Cafe David」と呼ばれる学生と教員との交流の場を設けています。曜日ごとに教員とTAが交代で担当し、学部生から大学院生まで、誰でも自由に出入りすることができます。

数理学科3年生の学生が参加していたので、参加のきっかけと感想を聞いてみました。「親切に教えてもらえると友人に聞いたのがきっかけ。自分だけで考えていて解決しなかったことが解決できる」とのこと。TAも「教えることで忘れていたことを思い出す」と話していました。教わる側も教える側も、有意義な場であることが伺えました。

授業やセミナーとはひと味違った雰囲気の中で、自由に話すこと。それは、価値観を広げたり、新しい発想を生み出すことにもつながると思います。ぜひ積極的に参加し、活用していただきたいと思います。（松久聖子）

毎年変わるおしゃれなポスター

コーヒーの香りとともに

卒業生の実体験に触れられる
働くこと・インターンシップセミナー&ミニ同窓会

真剣な眼差しの参加者

就職活動時期が変更になったことが昨年ニュースなどで大きく取り上げられていたかと思います。これまで、学部3年生／修士1年生の10月から就職活動が解禁になっていたのが、2016年3月卒業の学生達から、学部3年／修士1年の3月から活動開始にスケジュールが後ろ倒しになりました。

この変更に伴い、当研究科でも毎年開催している企業セミナー等の開催時期が変更になりました。これまで、12月に開催していた企業セミナーを昨年度より3月に開催することとなり、変更後初の企業セミナーは、参加企業数は例年通り30社程度だったのですが、参加学生数は春休みのためもあってか例年より2割ほど少ない状況でした。3ヶ月後の6月5日には、こちらも変更後初めての働くこと・インターンシップセミナー&ミニ同窓会が開催されました。3月の企業セミナーが就職活動をする学生を対象とした、企業の説明や採用方針の話などが中心に行われるのに対し、こちらは就職活動解禁前となるため、企業で活躍する卒業生と在学生とのコミュニケーションを促進するための役割が中心となりました。11社の企業のOB・OGが、自分達の就職活動時の様子、現在どういった仕事をしているのか、また、数学を学んだ人の仕事面での強みなど、多くの話をしてくださいました。参加した11名の学生達にとって就職活動の際の大きな指針となったことでしょう。また、セミナーに引き続きミニ同窓会を開催し、卒業生と在学生の交流を更に図りました。（渡辺ゆかり）

若き数学者たちの交流
～ 学術交流協定（覚書）に基づく実践 ～

インドネシア　ガジャマダ大学にて

概要を説明する菅野研究科長

2015年3月13日（金）、ガジャマダ大学理学部との間に学術交流覚書が締結されました。ガジャマダ大学理学部長の挨拶冒頭は日本語で始まり、終始和やかな雰囲気の中、調印式は恙無く終了しました。数学科に会場を移し、菅野研究科長から多元数理科学研究科の概要を説明した後、3名の博士後期課程学生が自身の研究について研究発表を行いました。

質問に答えるSuriajayaさん

引き続く学生交流に関する説明会では、学生から多元数理科学研究科における短期（数ヶ月）の滞在の可能性について具体的な質問が出るなど、実質的な交流に対する関心の高さが示されました。質問に答える形で、インドネシアからの留学生Ade Irma Suriajayaさんが多元数理科学研究科での学生生活についてインドネシア語で説明しました。

ベトナム　ハノイ数学研究所（VAST）にて

院生同士の交流

3月26日より4月4日まで、当研究科森吉仁志教授と後期博士課程の学生4名（9日間2名,4日間2名）が、ハノイ数学研究所を訪問しました。

訪問期間中、5日間にわたり集中講義を行い、また、VASTの幾何学セミナーにおいて専門家向けの講演を行ないました。さらに、研究所所有の瀟洒なセミナーハウスでワークショップが開催され、多元数理科学研究科の後期課程学生4名が研究発表をしました。大学院生間の交流が活発に行われたこと、密度の高い講義ができたこと、教員間の交流をさらに深めたことなど、今回の訪問の成果は大きなものとなりました。

中国　南京大学にて

南京大学数学系玄関前にて

5月に南京大学を訪問し、学術交流覚書に基づく若手研究者達のためのセミナーに参加しました。南京大学数学系長のHourong Qin教授はセミナー開始の挨拶で、諸事情により訪問実現までに2年を要したが、MoU締結に基づくセミナーを開催できることは大変喜ばしい、と語りました。セミナーでは話の途中に積極的に質問が出る等、活発な議論が交わされました。次回は是非名古屋大学で同様のセミナーの開催をという声に応える予定であることに加え、今秋から南京大学の後期課程学生が1年間滞在することとなっています。（小崎和子）

多元数理科学研究科より

入試情報

前期課程第1次募集
筆記試験 7月25日㈯　合格発表 ガイダンス 26日㈰

後期課程秋入学募集
口述試験 7月11日㈯　合格発表 14日㈫

後期課程夏期募集
筆記試験 7月29日㈬　口述試験 合格発表 30日㈭

願書受付期間

前期一次、後期夏期:2015年6月26日（金）～7月9日（木）
後期 秋入学:2015年6月24日（水）～6月30日（火）

◎詳細はこちら　http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/　をご覧ください。

◎お問い合わせ先／名古屋大学大学院多元数理科学研究科
TEL:052-789-2833　FAX:052-789-5397　e-mail : exam16@math.nagoya-u.ac.jp

平成27年度「数学アゴラ」のご案内

数学とその応用に興味を持つ高校生および高校教員を対象とした講演会、それが数学アゴラです。講師を務めるのは名古屋大学大学院多元数理科学研究科に所属する教員達です。多元数理科学研究科の教員はいずれも世界の第一線で活躍する研究者でもあります。その彼らが平明な言葉で数理科学について語ります。それを通じてひとりでも多くの方達に数理科学の有する魅力を理解していただけたらと願っています。また昨年度と同様、高大連携の一環として、愛知県教育委員会の『知の探究講座』とタイアップして開催されます。

日時
講義　平成27年8月5日㈬～7日㈮
総合演習日　8月24日㈪

プログラム
「ユークリッドから現代数学への道」（大沢 健夫　教　授）
「計算と論理」（J. ガリグ　准教授）
「素粒子論と現代数学」（浜中 真志　助　教）

◎申込み方法等数学アゴラに関する詳細は
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/public/agora/index.html をご覧ください。

数理学科ガイダンス　3月17日
多元数理科学研究科ガイダンス　4月6日
計算機ガイダンス　4月7日

新入生歓迎パーティ風景

ガイダンスでは、数理学科・多元数理科学研究科での学び方やカリキュラム、履修方法などの教務的な説明に加え、窓口の利用法、掲示板の案内など事務的な説明も行いました。また、就職・キャリア支援に関するものとして、就職支援室およびビジネス人材育成センターの教員による講演が行われました。

この他、大学院新入生は計算機ガイダンスと図書利用ガイダンスにおいて、これから学生生活を送るために必要不可欠なスキルの修得に向けて演習に取り組みました。ガイダンスの締めくくりとして、恒例の新入生歓迎パーティが開催され、多くの学生・教員が参加しました。

教育研究支援室では今後の学生生活を円滑にサポートできるよう個人情報の確認を行っています。住所・メールアドレス等に変更があった場合は窓口までお越しください。

（片田栄里）

院生室訪問

院生室訪問風景

多元数理科学研究科の院生室の割振りは年度初めに一新されます。新メンバーになって1ヶ月程度過ぎた5月中旬の2日間にすべての院生室を教員と事務職員が訪問し、修繕が必要な箇所、防災用ヘルメットの個数、電化製品の使い方などを確認するとともに、学生からの備品に関する要望や院生室全般について意見の聞き取りを行っています。

各院生室には室長を配置し、大学と学生間で連絡がスムーズに取れるよう配慮しています。また、公共の場としてふさわしい学習・研究環境を維持できるよう、必要に応じて再訪問や、不要品回収などにより快適な環境整備に努めています。

この時期のみでなく、院生室の修繕・不足品の補充は随時行なっています。不便に感じることがあればご相談ください。

（片田栄里）

教育研究支援室より

新学期が始まってはや数ヶ月。また新しい出会いがたくさんありました。新しい出会いがあると、世の中にはやっぱりいろいろな性格の人がいるなあ、と改めて思うものです。何を考えて、どうやって生きてきたら、こういう思考や行動が生まれるのか、と興味が湧きます。

今もしあなたが居心地がいいところにいると感じるなら、周りに考え方が似ている人が多いのかもしれません。でも、ときにはその枠からはみ出して、あえてそうでない環境下に自分をおくことも大切なように思います。そうすることで新しいものの発見につながることがきっとあると思うのです。一歩踏み出すときは、大きな労力を伴うでしょう。でも、進み始めてしまったら、意外に楽しかったり、サクサク順調に進んだりするものです。

今年はこれまで関わったことのない人やものと触れてみませんか?

教育研究支援室では、留学生交流イベントを年に2回開催しています。これまでの常識を覆す考え方に手軽に出会える場の一つだと思います。ぜひ一度顔を見せに来て下さい。お待ちしています。

（渡辺ゆかり）

編集後記

お気に入りの見つけ方が最近、少し分かってきました。お気に入りのお茶、コーヒー、香り、本、場所、靴、映画、etc. 少しずつ自分のお気に入りを集めていきたいと思っているのですが、なかなかすぐには出会えません。恐らく、一度でそれを見つけようとは思わないこと、時間をかけることを厭わないことがポイントかもしれません。これというものに出会うために試行錯誤を繰り返すことが必要ならば、むしろそのプロセスを楽しむ様にした方がいい、と少しゆったりと構えられる様になってきました。そうやって時間をかけて見つけたとっておきの数々は、まさに自分自身なのかもしれません。それならば、すぐに見つけられる訳はない、と少し違うことを考えてみたりもするのでした。（神田美幸）

名古屋大学 大学院多元数理科学研究科
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
TEL（052）789-2833　FAX（052）789-5397

企画編集 教育研究支援室